

イトモ

Potamogeton berchtoldii Fieber

ヒルムシロ科

石川県カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類

国カテゴリー

準絶滅危惧

選定理由

もともと少ない種類であるが、近年急減している。(現況:R-)

形態

葉は沈水葉だけがあり、独立した托葉があつて筒状となり、茎を抱いている。葉は線形で葉の幅は0.7～1.5mm、長さ2～6cm。よく結実し果実は長さ2～2.5mm、幅1.5mm。

国内分布

北海道、本州、四国、九州、琉球に分布。世界に広く分布する。

県内分布

かつては白山高地区を除く全県下に分布した。近年は舩倉島、奥能登、中能登区、口能登区、加賀中央区、南加賀区からの報告がある。

生態など

沈水性多年生植物。花期は6～8月、水中で自家受粉する。秋になると枝の先端が殖芽となり水底に沈んで越冬する。長さ15～25cmでホソミズヒキモやツツイトモよりはるかに大きい。

生育環境

湖沼、溜池、水路など。

危険要因

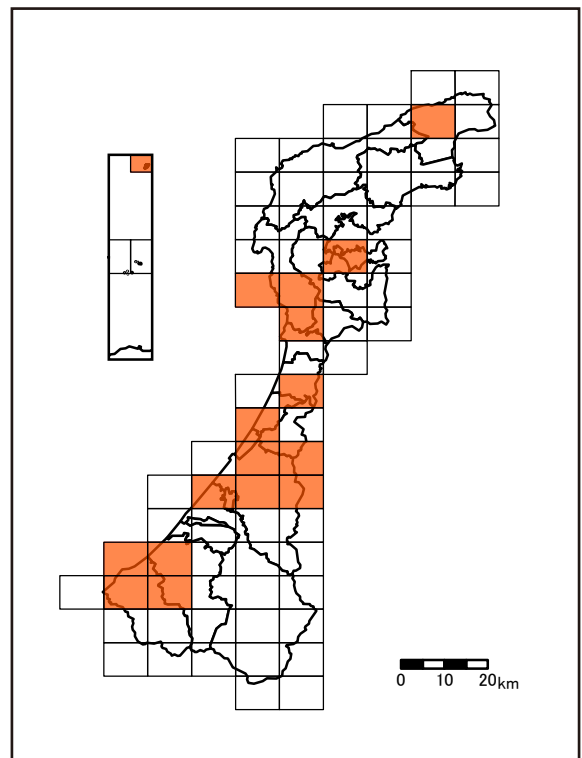
河川開発、水質汚濁など。

特記事項

本県でイトモと報告されているものには、アイノコイトモ *P.orientalis* Hagstr. がふくまれている可能性がある。



古場田良次・2002年7月23日・加賀市



県内の分布